

## 役員 (2013年4月1日現在)

### 代表理事(会長)

大島 美恵子 東北公益文科大学名誉教授

### 常務理事

中村 健治 公益財団法人 日本科学協会 常務理事

### 評議員

梶 英輔 北里大学副学長、名誉教授／

女子美術大学理事

門野 泉 清泉女子大学長、教学担当理事

竹内 啓 東京大学名誉教授／明治学院大学名誉教授／

日本学士院会員

梅干野 晃 放送大学教授／東京工業大学名誉教授

山田 卓三 兵庫教育大学名誉教授／

名古屋芸術大学名誉教授／

兵庫県立南但馬自然学校校長

渡邊 雄一郎 東京大学大学院総合文化研究科

生命環境科学系教授

### 理事

今里 智晃 広島大学名誉教授

川口 春馬 神奈川大学工学部特任教授／

慶應義塾大学名誉教授

木村 龍治 放送大学客員教授／東京大学名誉教授

高橋 正征 東京大学名誉教授／高知大学名誉教授

和崎 春日 中部大学国際関係学部長、教授

### 監事

坂本 真輔 元(財)日本モーターボート競走会理事

西本 克己 (株)東京ビー・エム・シー代表取締役社長

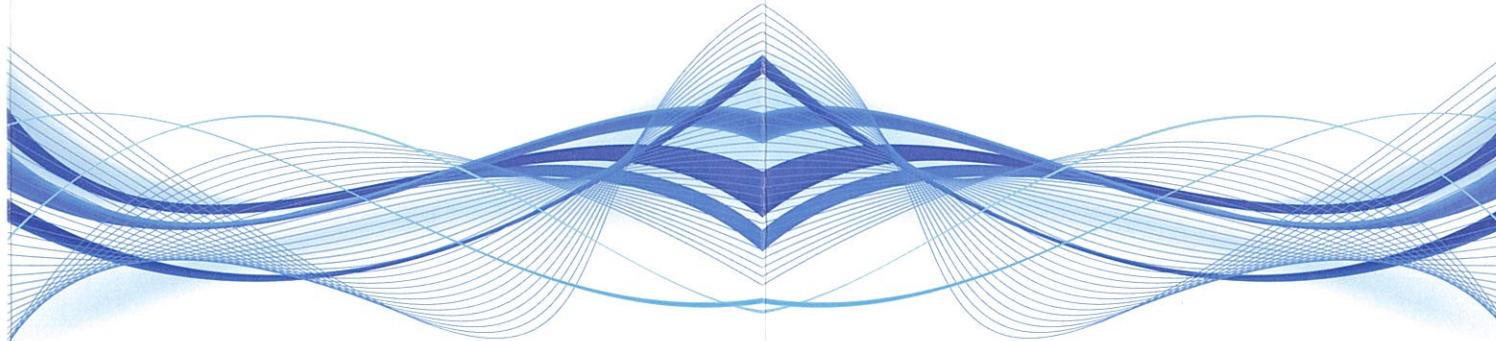
## 法人成立

1924年(大正13)6月13日

公益財団法人

# 日本科学協会

jss 公益財団法人  
日本科学協会



〒107-0052 東京都港区赤坂1-2-2 日本財団ビル5F

TEL 03-6229-5360(代表) FAX 03-6229-5369

E-MAIL info@jss.or.jp URL http://www.jss.or.jp/



日本科学協会の主な事業は、ボートレース公益資金による日本財団の助成を受けて実施しています。

The Japan Science Society

# 現行事業

## ごあいさつ

公益財団法人日本科学協会は、学者を中心に科学の振興を目的として1924年に発足した90年の歴史をもつ財団です。日本財団の支援を受けて1988年度から推進してきた科学研究助成事業は「博士課程大学院生を主な対象とし、他から助成を受けにくい分野の有望な萌芽的研究を支援する」ことを選考方針とし、7,600名を超える若手研究者に総額44億円以上の支援をしてきました。また1999年度から実施している教育・研究図書寄贈事業では、中国各地の37大学1研究機関に総数300万冊以上の図書を寄贈し、中国の若い人々に日本を知つてもらう努力をしてきました。この他、科学実験データベースの公開など多くの取り組みを行っております。

大地震と津波の災害、原子力発電所の事故は、科学と科学技術に対する人々の信頼を大きく揺るがすことになりました。今こそ、日本がどのように科学・技術と取り組み、発展させていくかが問われている時と言えましょう。日本科学協会は、将来を担う若い研究者への人材育成支援や、一般の方への科学知識の普及を通じて、科学と科学技術の健全な発展のためにさらに活動してゆきたいと思っております。



公益財団法人 日本科学協会

会長 大島 美恵子

医学博士・東北公益文科大学名誉教授

## 笹川科学研究助成

### 若手研究者の研究に対する支援

科学研究の将来を担う人材の育成とその研究を奨励し、併せて研究交流の推進に努めることにより、科学研究の振興を図ります。



## 国際交流

### 日中相互理解の促進を目指して

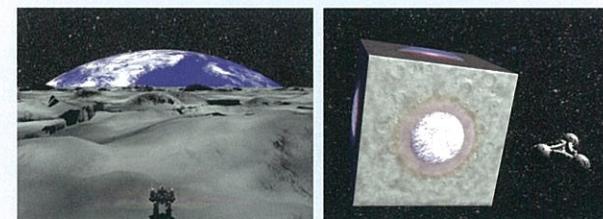
日本で収集した図書の中国への寄贈、中国の若者を対象に"日本"をテーマとして開催する「知識大会」や「作文コンクール」を通じて、対日理解と友好交流の促進を図ります。



## 立方体地球-Cubic Earth-

### 科学・技術への関心を高める支援

「もしも、地球が立方体だったら地球表面の環境がどのように変化するか」を考え、オリジナル映像で科学的考察を分かり易く解説しています。



## 科学実験データベースの公開

科学・技術が身近なものとして親しまれることを目指して科学・技術に関する実験や話題を「科学実験DB」「原体験コラム」「自然の形と知恵」のカテゴリーに分けて、ホームページで公開しています。



## ■近年の事業

### 体感型実験装置群の巡回展 (2007年度～現在)

身近な話題をテーマに体感型実験装置群の開発・製作をし、全国で巡回展示し、科学の学習の魅力を伝え、科学・技術の普及に努めています。

### 青少年の科学体験まつり (1993年度～2003年度)

日常生活の手近な材料を活用して製作した理科実験装置による科学体験により、青少年に科学の楽しさ、不思議さ、大切さを広めました。

### 「研究船で海を学ぼう」の実施 (2006年度～2010年度)

「海」に関心がある高校生などを対象に、船上での観測・実習を行い、海について学ぶ体験学習を実施しました。

### 水域環境をめぐる学習活動等の成果公表支援 (2001年度～2005年度)

水域環境への市民一般の意識啓発・高揚を図ることを目的にした積極的なNGO・NPO・市民グループの方々を支援しました。